

〔調査記録〕

# 翁の技法

高桑いづみ

はじめに

凡例

一 詞章の異同

二 型の異同

三 笛（森田流）と謡の関係

四 唱歌一覧

五 鼓と謡・型の関係

六 小鼓手組一覧

## はじめに

『翁』は、鎌倉時代から演じられてきた能楽最古の演目である。現在の能に通じる技法を混在させながらも古風な芸態を端々に残し、「能にして能にあらず」とも言われるように神事的な色彩が強い。秘事として扱われ、附の類が非公開であつたために今まで技法の全容が解明されていなかったが、これには、流儀差が大きく上演の機会が少ないことも、要因として挙げられる。

芸能部では、一九九四年より各流の能楽師におこしいただき、所内の舞台で画像及び映像による全役全流儀の技法の記録を開始した。本稿はその調査録の一部である。

ところが、『翁』といえども演出には流動的な部分が多く、ひとつの流儀のなかでも個人や家による伝承や主張の違いがある。本稿では、残念ながら個人による相違まで網羅しえなかった。また、今回は〈翁〉に限ったが、〈千歳〉〈三番叟〉については次号以降に掲載する予定である。

原稿作成にあたって、左記の能楽師の方々にご協力をいただき、国立能楽堂での公演資料も参考にさせていただいた。ご協力いただいた方々、機関に感謝申し上げます。

シテ方 浅見真州（観世流） 金井章（宝生流） 瀬尾菊次（金春流） 豊嶋訓三（金剛流）

友枝昭世（喜多流）

笛方 一噌庸二（一噌流） 杉市和（森田流） 藤田六郎兵衛（藤田流）

小鼓方 曾和博朗（幸流） 大倉源次郎（大倉流） 幸清次郎（幸清流） 宮増純三（観世流）

曾和尚靖（幸流） 森沢勇司（幸清流）

なお本稿は、高桑いづみが本文を作成作表し、羽田昶が全体を校閲した。

## 凡例

一、本稿では、現行の〈翁〉の祝言にかかわる所作、囃子について、シテ方・囃子方全流儀を対象とした。

一、舞台の進行に従い、詞章・所作・囃子の順に記述を行った。シテ方は上掛り・下掛りの順になっている。

一、「一、詞章の異同」「二、型の異同」「三、笛と謡の関係」「五、鼓と謡・型の関係」の詞章は観世流大成版所収の現行「四日之式」に従った。流儀名については左記の略号を用いた。

宝生流（ホ） 金春流（バ） 金剛流（ゴ） 喜多流（キ） 大藏流（オ） 和泉流（イ）

各流で参照した謡本は左記の通りである。

観世流 大成版謡本（檜書店刊） 稽古本新装決定版（能楽書林刊）

宝生流 旅の友（わんや書店刊）

金春流 謡曲百番集（金春円満井会出版部刊）

金剛流 昭和版（檜書店刊）

喜多流 四季の友（喜多流刊行会刊）

一、「二、型の異同」では、できるだけ共通の用語で所作を表記するよう心がけた。所作名称が流儀によつてはつきり異なる場合は、『岩波講座 能・狂言 別巻 能楽図説』で採用した統一名称を用いた。また「翁の舞」に記した小鼓の手は幸流に従い、舞中の型が小鼓の粒に対応する場合は粒の横に傍線を引いて対応関係を示した。所作の表記は原則として手の右側としたが、スペースの都合で左に記した場合もある。所作に関する心得や注記には、\*印を付けた。



## 統一名称の例

統一名称	観世	宝生	金春	金剛	喜多
シカケ 胸ザシ ツキザシ	サシ込 胸ザシ サシコミ	シカケ マキザシ 扇ニテサシ	サシ 打込サシ サシ	シカケ カイ込 ツキザシ	シカケ 巻ザシ シカケ

所作の写真は、上掛りは観世流、下掛りは喜多流で全体の流れを追い、他の三流については異同の箇所のみ掲げた。型の後に付した丸数字は、写真との対応番号である。なお参考として「翁ノ舞概念図」を付したが、これは、一九七九年に行われた能楽懇談会主催の「第五回公開能楽講座」で横道萬里雄氏が作成した資料をもとにしている。

一、「三、笛と謡の関係」では、笛を吹き出すキツカケとなる謡の横に線を引き、謡いっぱいアシラウ箇所はその謡部分を「」でくくって示した。森田流の唱歌で対応関係を示し、演奏上の心得を①から⑩まで挙げたが、心得が流儀によって異なる場合は、左記の略号を用いた。

森田流(モ)      一噌流(イ)      藤田流(フ)

一、「五、鼓と謡・型の関係」では、手配りを変えるキツカケとなる謡や笛の唱歌、型の下に鼓の手を記した。小鼓の手組は流儀による異同が大きいので統一名称を作成し、具体的な粒立は「六、手組一覧」で示した。粒の表記は幸流に従い、二句以上に及ぶ場合は、←を付けている。注記の際、流儀名には左記の略称を用いた。

幸流(コ)      幸清流(セ)      大倉流(オ)      観世流(カ)

## 一、詞章の異同

①とうとうたりたりたりら  
 たり②あがりららり③とう  
 ちりやたりたりら  
 たり②あがりららり③とう

所千代までおはしませ

我らも千秋さむらはう

鶴と亀とのよはひにて

幸ひ心に任せたり

①とうとうたりたりたりら

ちりやたりたりら

たり②あがりららり③とう

鳴るは滝の水 鳴るは滝の水

日は照るとも

絶えずとうたりありう④とうとうとう

絶えずとうたり ⑤常にとうたり

総角やとんどや

⑥尋ばかりやとんどや

①とうとう(ホ) どうどう(バ・キ)

②ららり(バ)

③どう(ホ・ゴ・キ)

④どうどうどう(ホ・ゴ・キ) どうどう(バ)

⑤絶えず(バ・ゴ・キ)

⑥よばかりや(バ)

坐してゐたれども

参らう⑦れんげりやとんどや

千早⑧ふる 神の⑨ひこさの昔より

⑩久しかれとぞ⑪祝ひ

そよや⑫りちや ⑬

⑭およそ千年の鶴は

⑮萬歳樂と謡うたり

また萬代の池の龜は

甲に三極を⑯そなへたり

A「渚の砂

さくさくとして朝の日の色を朗じ

滝の水冷々と⑰して

夜の月あざやかに浮かんたり」

天下泰平 国土安穩 ⑱

今日の御祈禱なり

ありはらや ⑲なぞの翁ども

あれは⑲なぞの翁ども

そやいづくの翁⑳とうとう

そよや

千秋萬歳の 喜びの舞なれば

ひと舞舞はう萬歳樂 萬歳樂

萬歳樂

萬歳樂

⑦れんげじや(パ)

⑧ふる(パ・ゴ・キ)

⑩我がこのところ(ゴ)

⑫れいちやとんどや(キ)

⑨みこと(キ)  
⑪よわい(パ)  
⑬とんどや(パ・ゴ)

⑭ナシ(パ・ゴ・キ)

⑮まんざいらく(カ・ゴ) ばんぜいらく(キ・パ・ゴ)

⑯戴き(ホ)

A ナシ(パ・ゴ・キ)

⑰落ちて(ホ)

⑱の(パ・ゴ)

⑲なじよの(ホ・パ・ゴ・キ)

⑳とうとう(ホ) ども(パ・ゴ・キ)

## 二、型の異同 ― 翁の出

	観 世	宝 生
幕 離 れ	面箱のあと二間ほど離れる 左足より出る	面箱のあと二間ほど離れる 左足より出る
本舞台へ入る	横板で左足カケて正中へ行く 正中で左手広げ気味に左足カケて向きを替え ハコビを速めて正先へ出る 左足で止まる	横板で左足カケて正中へ行く 左足カケて正先へ出る 左足で止まる
礼	左より替左右(①②)しながら三足下がる 左足出し、左膝を立てて下に居(③) 深く礼(④)	左より三足下がる 別に右足引きながら左膝を立てて下に居 腰引き立てて左右の袖をハライ(⑧)、 礼(⑨) * 烏帽子の先が板に付く迄
礼あと	体起こし 左膝立てたまま笛座へ向き立つ 左足より出、笛前へ行き止まる	顔上げ、腰を引き立てざまに 両手を胸に当てて衣紋ツクロイ(⑩) 地謡の方へ向き、膝立て替えず立つ 左足より出、地謡座の方へ行く



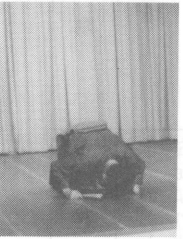
⑥ 左袖戻す



⑦ 右袖戻す



⑧ 腰引き立テテ  
左右の袖ハラウ



⑨ 礼(烏帽子の先  
が板につくまで)



⑩ 衣紋ツクロイ



① 替左右(左)



② 替左右(右)



③ 左膝立てて下二居



④ 深く礼



⑤ 右膝音を立てて安座

面さばき	
面箱にまかせる(箱の位置は扇の先で指示)	<p>左足カケて角へ向き、 両袖返しながら右より二足出 右膝音を立ててつきながら安座し(⑤) 左、右と袖を戻す(⑥⑦)</p>
面箱にまかせる(箱の位置は扇の先で指示)	<p>左足カケ目付柱を左へはずしたあたりを向き 右より二足踏み出しながら両袖返す 大口の後ろを両手に取り、 右膝音を立ててつきながら安座</p>

	金 春	金 剛	喜 多
幕 離 れ	千歳より二間半程離れて出る	千歳二ノ松にかかる頃 左、右とウケ 直して左足より出る	千歳のあと二間ほど離れる 左足より出る * 古来右足からという説も
本 舞 台 へ 入 る	正中でネジッて向きを変え、 左足より正先へ出、左足で止め * 身を固めながら	横板で左足カケて正中へ行く 正中でとまり、袖扱い 正先へ出、右足で止まる	正中で左足カケて正先へ出る 左足で止まり右添える * 烏居をくぐるような気持ち
礼	左より三足下がる  右膝を立てて下に居(①) 腰引き立てて礼 * 烏帽子の先が板に付く迄	左、右とウケて直す (家元は左右左) 右膝立てて下に居 礼(②) * 唱え言 (一二三四五六七八九十百千万)	右、左と引分ケヒラキ  右膝立てて下に居(③) 深く礼 * 烏帽子の先が板に付く迄
礼 あ と	体起こし、膝立て替え 袖ハライ、笛座へ向く 右足より出、地謡座の方へ行く	体起こし膝立て替え 左袖ハライ、笛柱へ向き立つ 左足より出、地謡座前へ行く	体起こし膝立て替え 左、右と袖扱いながら立つ(④) 左足より出、地謡座の方へ行く



① 右膝立てて下二居  
(礼の前)



② 右膝立てて礼



③ 右膝立てて礼



④ 礼の後、膝立て替え  
左、右と袖を扱う



⑤ 安座の前に指貫の後  
ろを摘む

面さばき		
千歳が面箱の蓋を裏返すと 扇置き、面を取りだす 蓋に載せ、面紐ほどき 面当てを下に置き、 面紐を面の両脇に置く 扇を持ち、左、右と袖さばく	左足カケ目付柱へ向き 右、左と出て指貫の後ろを摘み、 音をあまり立てずに安座 左、右と袖をさばく	
千歳が面箱の蓋を裏返すと 扇置き、面を取りだす 蓋に載せ、面紐ほどき 面当てを下に置き、 面紐を面の両脇に置く 扇を持ち、袖をハネル	左足カケて目付柱の方へ向く 右足引き、 音を立てて右膝つく 右袖ハネて安座、左袖ハネル	
千歳にまかせろ (箱の位置は扇の先で指示)	左足カケて正面向き 少し出ながら両袖返し、 指貫の後ろを摘み(⑤) 右膝音を立てながら安座 袖を戻す	

## 面を付ける

<p>親 世</p>	<p>「君の千歳を経んことも」を聞いて 扇を膝の前に置き、面を取っていただく</p> <p>右、左と紐をさばき顔に当てる</p> <p>* ズーッと声を出して面のしまり具合を後見に合図</p>
<p>宝 生</p>	<p>「君の千歳を経んことも」を聞いて 扇を膝の前に置き、面を取り</p> <p>* 面裏を正面へ見せぬよう右手を左手の上にのせる</p> <p>左、右と紐をさばき顔に当てる</p> <p>* 右の人差し指を挙げて面のしまり具合を後見に合図</p>
<p>金 春</p>	<p>「絶えずとうたり」を聞いて 扇を前または面箱の脇に置き 右手を左手の上に載せて面を取って返し 紐を左右と取って後見へ渡し</p> <p>* 面に添えた右手を上下させたり、放すことで しまり具合を合図</p> <p>右手を納めながら髭を握って下へしこき下げ(⑦)</p> <p>扇を取って左・右と袖直す</p>
<p>金 剛</p>	<p>千歳が両袖巻くのを見て 扇下に置き 面を両手に取っていただく</p> <p>面を付け扇を取り両袖直す</p> <p>* 面のしまり具合がよくなったら人差し指を開く(⑥)</p>





⑥ しまり具合の指示



⑦ 髭をしごき下げる



① 面をいただく



② 左手で面を返す



③ 紐を後ろにはねる



④ 面をつける



⑤ しまり具合の指示

「所千代まで」を聞いて

扇横に置いて面をいただき(①)、左手で面を返し(②)  
紐を右、左とはねて面つける(③④)

喜

多

\* 面裏のアテが観客に見えぬよう  
\* 右手の指の上下で面のしまり具合を指示

(⑤)

## 対面

キツカケの謡	親 世	宝 生
<p>総角やとんどや 尋ばかりや とんどや 坐してゐたれ ども 参らう れんげりや とんどや</p>	<p>左膝立てて立ちながら扇広げ 左膝立てて立ちながら扇広げ 三番叟に向かい、両袖広げて大小前に行き 左足で止めて三番叟と向き合う 右足カケて正へ三足出 左より三足下がりながら深く上体をそらすよう にタッバイ(①) 再び両手広げる</p>	<p>「どや」で立ちかけ、面箱を左へのける 扇広げて立ち、三番叟と向き合う 左より出 大小前で右カケ正へ一足出ながら 扇に左手添えてタッバイ(②) 扇下げながら右より一足引き 改めて右手横へ上げる</p>



① タッバイ



② タッバイ



① 屈身敬礼



② 天ノタツパイ



③ タツパイ

<p>キツカケの謡</p>	<p>総角やとんどや 尋ばかりや とんどや 坐してゐたれ ども 参らう れんげりや とんどや</p>
<p>金 春</p>	<p>扇開き 左膝立て面箱左へ押しやり 立って大小前に行き 三番叟と向き合う ネジッて正面向き</p>
<p>金 剛</p>	<p>腰上ゲ、面箱を左に寄せる 扇開き 三番叟と向きあつて立ち 大小前へ行く 正面向き両手広げ 一足出て天ノタツパイ(②)</p>
<p>喜 多</p>	<p>面箱左へやり 左膝立て 大小の方を向く 扇開いて立つ 大小前へ行き 三番叟と向き合う 右カケて正向き 扇開いたままタツパイ(③)</p>

## 祝言

キツカケの謡	観 世	宝 生
<p>千早ぶるゝ          久しかれとぞ祝ひ          そよやりちや          およそ千年のゝ          今日の御祈禱なり          ありはらや          なぞの          翁ども</p>	<p>謡出(①)          右ウケ、右、左と出ながら両手下ろす          替左右して沈ミ(②)          謡いっぱいに体を戻す          両手広げて謡出</p>	<p>謡出(⑥)          「ぞ」 扇下げながら左へヒネリ          「祝ひ」 右へ右左と出ながら          左右打込          改めて謡いっぱいに右手横に上げる          謡出          「り」 左へウケ          正先と脇座の間に出          左足カケて常座へ行く          左足でとまり、扇下ろす          左へ身ヲ替エ、扇前へつけ          半身になって一ノ松辺を見込む</p>



⑥ 右手上げ祝言



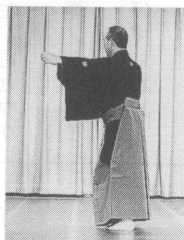
① 両袖広げ謡い出す



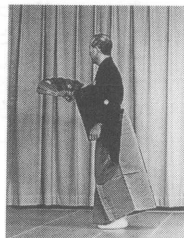
② 沈ミ



③ 脇座向き運び出す



④ 丸く回り常座へ行く



⑤ 半身になって幕の  
ほう見込む

あれはなぞの  
翁ども  
そやいづくの  
翁とうとう  
そよや

右足カケて向き替えながら両手広げ  
正中低めに行き  
大小前で左足カケて右より二足出て  
両手下ろし  
左より三足下がりがら替左右・沈ミ

大小前へ向き、  
左足引きつけて右足より大小前に出る  
左足カケて正面向き  
片左右打込  
右手前に出す

キツカケの謡	千早ぶる 久しかれとぞ祝ひ そよやりちや	両手広げ、謡出(①) *扇一文字になるように 手下げながら角へ向き一足出 左右打込 両手カキ合ワセ屈身敬礼	金 春
千年のゝ 今日の御祈禱なり ありはらや なじよの 翁ども	手を下げながら右の方へ向き 右、左、右と出 面箱の方へ向きを変えて 左、右、左と出て 打込面箱をツキザシ 左足拍子(*ツケノ扇②)	両手広げて謡出 両手広げ、謡出(④) 両手下げ、右、左、右とウケ 正へ一足出 身を沈めながら地ノタツパイ 袖ハネ、手は挙げずに謡出 角へ向き出	金 剛
	少し右へ取り 右の方から左へ回り 打込風に扇上から下ろしな がら常座へ行き 腰を深く入れ(⑨) 小鼓の手に合わせ左、右と 足拍子	角トリ 左へ回り 幕の方へ向き胸ザシしながら 出(⑤) 扇体の前に出して 左、右、左と足拍子(⑥)	喜 多



⑥ 幕のほうへ向き  
左右左と足拍子



⑦ 舞の直前 腰沈メ



⑧ 右手上げて謡い出す



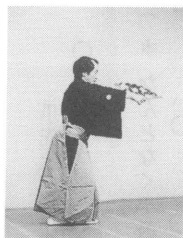
⑨ 常座で左、右と  
足拍子



⑩ 舞の直前  
深く腰を入れる



① 両手広げ謡い出す



② ツケの扇



③ 舞の直前 腰かがめ  
足拍子



④ 両手一文字に広げ  
謡い出す



⑤ 幕のほうへ向き  
胸ザシしながら出る

あれはなぞの  
翁ども  
そやいづくの  
翁とうとう  
そよや

両手広げながら  
左足より右へ中回り  
大小前で左右打込  
腰をかがめながら (③)  
小鼓に合わせて左、右と足拍子

大左右

サシ回シヒラキ  
両手下げて腰沈め、直す (⑦)

体起こし  
右足カケて右手おろし  
正中へ出  
身ヲ入レ  
サシ回シしながら左右  
打込のように引きつけ  
深く腰を入れる (⑩)

## 公羽の舞

観 世 1	宝 生 1
<p>体起こし両手広げて角へ向く(①)</p> <p>イヤ△ イヤ△ ハ○ ○○</p> <p>左足を出し イヤ△ ハア ○ ○○</p> <p>爪先上げ 爪先下ろす</p> <p>右より四足出る(* なんとなく小鼓に合わせる)</p> <p>イヤ△ イヤ△ ハ○ ○○</p> <p>右より引き続き四足出る</p> <p>イヤ△ ハア ○ ○○</p> <p>この前半で二足出、左足で止まる</p> <p>イヤ△ イヤ△ ハ○ ○○</p> <p>天ノ拍子(②)</p> <p>両手をおろす イヤ△ ▲ ハア ○ ○○</p> <p>左 右と足拍子</p>	<p>右より一足引きながら扇下げ</p> <p>イヤ△ イヤ△ ハ○ ○○</p> <p>扇上げ イヤ△ ▲ ハア ○ ○○</p> <p>左 右と足拍子</p> <p>左足ヒネリ角へ向き</p> <p>ハア ○ ○○</p> <p>右足引きつけ 左より角へ出始め(⑧)</p> <p>イヤ△ イヤ△ ハ○ ○○</p> <p>右</p> <p>イヤ△ ▲ ハア ○ ○○</p> <p>左と足を踏み止めそろえ</p> <p>ハ○ ○○</p> <p>ヒネリ正向きながら扇下げる</p>



<p>イヤ△      左足拍子</p> <p>ハ○      両手を広げ、右足カケて脇座へ向く</p>	<p>右足を出して踏みつけ</p> <p>イヤ△      ハア      ○      ○</p>	<p>左より四足出る</p> <p>イヤ△      イヤ△      ハ○      ○</p>	<p>四足出る</p> <p>イヤ△      ハア      ○      ○</p>	<p>この前半で二足出、右で止まる</p> <p>イヤ△      イヤ△      ハ○      ○</p>	<p>地ノ拍子 (③)</p> <p>両手おろす</p> <p>イヤ△      ▲      ハア      ○      ○      右      左と足拍子</p>	<p>右足拍子</p> <p>イヤ△      ハ○      ○</p>
<p>イヤ△      左足拍子</p> <p>ハ○      ヒネリ脇座へ向き、扇一旦下げ左足引きつけながら再び扇上げる</p>	<p>出力カリ</p> <p>イヤ△      ハア      ○      ○</p>	<p>イヤ△      イヤ△      ハ○      ○</p>	<p>イヤ△      ハア      ○      ○</p>	<p>右と足を踏み止めそろえ</p> <p>イヤ△      ▲      ハア      ○      ○      右      左と足拍子</p>	<p>再び扇上げ</p> <p>イヤ△      ▲      ハア      ○      ○      右      左と足拍子</p>	<p>右足拍子      右ヒネリ左へ回り</p> <p>イヤ△      ハ○      ○</p>

右手を上げ右足カケて大きく回って大小前へ行き

正先へ出てシカケながら右足で止まり

右より二足出ながら左袖カズキ(④)

左より二足引きながら扇を顔に当てる

右へ大きく回り、太鼓の前で左袖おろし

大小前へ行く

正よりシカケながら出て左足で止まり

右より二足出ながら左袖巻く(⑤)

左より三足下がりながら替左右

人ノ拍子(⑥)

イヤ△ ヨーイ・△ ヤア

左 右と足拍子

イヤ△

左拍子

ハ○ ハ○

○○

構エを戻して両手広げ謡い出す

シテの最後の「万歳楽」で三足下がりながら深く上体を反らすようにタッバイ

常座より大左右にて正へ出 身ヲ入レ

左より一足引いて左袖カズキ扇を顔に当てる

右へ大きく回り、脇正で左袖おろし

大小前へ行く

右へ身ヲ入レ、右より一足出ながら

左袖巻き 左へウケながら袖おろし

イヤ△ ヨーイ・△ ヤア

正面で半身になって胸ザシ

イヤ△ ヨーイ・△ ヤア

右 左と足拍子(⑩)

イヤ△

右足拍子

ハ○ ハ○

○○

右より一足引きながら扇上げ

イヤ△ ハ○ ヤ○ ○○

見計らい「千秋万歳」と謡い出す

シテの最後の「万歳楽」で扇おろし地謡の「万歳楽」でタッバイ

⑥ 人ノ拍子



⑦ 面はずす



⑧ 右手上げ角へ向き  
運び出す



⑨ 扇上げ天ノ拍子



⑩ 人ノ拍子



① 両袖広げ角へ向き  
左足出し爪先上げる



② 両手おろし天ノ拍子



③ 地ノ拍子



④ 左袖カズク



⑤ 左袖巻ク



両手を広げ、右足カケて笛座へ向き左足より出る  
両手をおろして下居  
扇閉じ、左袖口で面を押さえ、右手で紐外す(⑦)  
両手で面をいただき、面箱の上に載せて扇を取る  
向きを変え、左足より正中へ出て正先でとまる  
左、右と袖を扱い、左膝立てて下居 礼  
膝立て替え、橋掛りへ向き右足より出、幕へ入る

右より一足引きながら両手おろし  
右足ヒネリ左足引きつけながら扇閉じ  
面箱の方へ行き、左の袖を面に当て、右手で紐外す  
\* 面裏を正面へ見せぬよう右手を上にも面を返す  
両手で面をいただき、箱の蓋の上に載せ扇を取る  
正向き立ち上がり、右足より出  
正先で左膝立てて礼  
膝立て替え、橋掛りへ向き右足より出、幕へ入る

金 剛	喜 多
<p>体起こして角へ向く          イヤ△ イヤ△ ハ○ ○○          右足出 爪先上げ 爪先おろす          イヤ△ ハア ○ ○○          左足揃える 左足出 爪先上げ 爪先おろす          イヤ△ イヤ△ ハ○ ○○          右足揃える 右足出 爪先上げ 爪先おろす          イヤ△ ハア ○ ○○          左足揃える 左足出 爪先上げ 爪先おろす          イヤ△ イヤ△ ハ○ ○○          右足揃える 右足出 爪先上げ 爪先おろす          イヤ△ ハア ○ ○○          角で左足を揃え両手すばめて腰を沈める          イヤ△ イヤ△ ハ○ ○○</p> <p>天ノ拍子の手          腰伸ばして          イヤ△ ▲          ハア ○ ○ ○ ○          左拍子ヌク 右拍子 左拍子ヌク</p>	<p>右手横に上げながら体起こして角へ向き(①)          イヤ△ イヤ△ ハ○ ○○          右足出す ハア ○ ○○          イヤ△ ハア ○ ○○          左足出す イヤ△ ハ○ ○○          右足出す 後崩してハコビ出す          イヤ△ ハア ○ ○○</p> <p>右          イヤ△ 左と足を踏みとめ          イヤ△ ハ○ ○○</p> <p>腰を入れ(②)          イヤ△ ▲          ハア ○ ○ ○ ○          左 右 左と足拍子</p>

<p>脇座へ向く イヤ△ イヤ△ ハ○ ○○</p>	<p>左足出 イヤ△ ハア ○ ○○</p>	<p>右足揃える 右足出 イヤ△ イヤ△ ハ○ ○○</p>	<p>左足揃える 左足出 イヤ△ ハア ○ ○○</p>	<p>正中と脇柱の間で右足を左に揃え 両手すぼめて腰を沈める イヤ△ イヤ△ ハ○ ○○</p>	<p>地ノ拍子 腰伸ばして イヤ△ ▲ ハア ○○</p>	<p>左へ廻り大小前へ行く 正へ向き、大左右にて角へ行く 角取りさま左袖カズキ扇を顔にあてながらシサル</p>
<p>体起こし右足カケ イヤ△ イヤ△ ハ○ ○○</p>	<p>左足出す (③) イヤ△ ハア ○ ○○</p>	<p>右足出す イヤ△ イヤ△ ハ○ ○○</p>	<p>左足出す イヤ△ ハア ○ ○○</p>	<p>右 イヤ△ 左と足を踏みとめ イヤ△ ハ○ ○○</p>	<p>腰を深く沈めて (④) イヤ△ ▲ ハア ○○</p>	<p>体起こし、 足カケいったん右手上げ、おろしながら左へ回って 常座へ行く 左右をして正中へ出、両手をあつかいながら 角へ出 (⑤)</p>

袖戻して右へ回り扇おろし  
 大小前へ戻り、左手サソイながら角へ行く  
 左袖巻き、角取り（＊ 右を見る心）

左へ廻り、脇座前で大小の方へ向くとき左袖おろす  
 大小前へ行き、

正面向いて足を引きながら左、右とウケ

正面を打込 人ノ拍子

イヤ△ ヨーイ・△ ヤア ○ 左 右と足拍子

左拍子

イヤ△ ハ○ ハ○ ○○

シテ「万歳楽」 右へ向き、

地「万歳楽」 左へ中回り

シテ「万歳楽」 大小前へ向く

地「万歳楽」 正面へ向く

足引き、腰少しかがめながら人ノタツバイ

両手おろして扇閉じ、面箱の方へ向く

右足より出、面箱の前にとまり右足引いて下居

扇下に置き、左袖口で面を押さえ、右手で紐外す

左袖カズキ（⑥）扇を顔に当てて沈み（⑦）  
 右へ廻りながら扇おろし、左袖おろす  
 正中より左袖巻きながら角へ出  
 扇を体横に引きつける（⑧）

左へ大きく回り、地前で左袖おろす

大小前へ行き

正面向いて左、右と打込ように引きつけ、

腰ヲ入レ、人ノ拍子（⑨） 左 右と足拍子

イヤ△ ヨーイ・△ ヤア ○

左拍子

イヤ△ ハ○ ハ○ ○○

体起こし右手を上げ、「千秋万歳」と謡い出す

「ひと舞舞はう」以後 左へ小さく回り

大小前へ戻る

地謡の「万歳楽」でタツバイ

手を下ろし扇閉じる

右足カケて向きを変え、左足より出る

右膝つき、右袖で面を押さえながら面を外す（⑩）



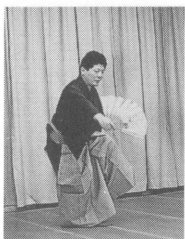
⑥ 左袖カズク



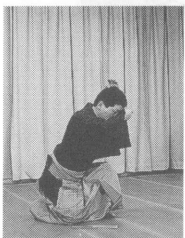
⑦ 右扇で顔おい沈ミ



⑧ 袖巻キ 運び出ス



⑨ 人ノ拍子



⑩ 左袖で面をおさえながらはずす



① 右手構え角へ向き  
右足出す



② 腰を入れ天ノ拍子



③ 天ノ拍子あと  
協座に向かう



④ 地ノ拍子



⑤ 両手扱い角へ出る

両手で面をいただき、蓋の上に置き、扇を取る  
膝立て替えながら角へ向いて立ち、  
右足より出て正中より正面へ出、  
左足でとまり、右、左、右とウケ、正へ直り  
左膝立てて下居 礼  
膝立て替え、橋掛りへ向き、右足より出、幕へ入る

膝立て替え、袖を軽く扱いながら立つ  
左足より正中へ出、正中にて右足カケ正先へ出る  
左足でとまり、左、右と引分ケヒラキ  
左膝立てて下居 礼  
膝立て替え、橋掛りへ向き、右足より出、幕へ入る

金		春	
体起こし右足出(①)	爪先上げ	左そろえ	
イヤ△	イヤ△	ハ○	○
左足出	爪先上げ	右そろえ	
イヤ△	ハア	○	○
右足出	爪先上げ	左そろえ	
イヤ△	イヤ△	ハ○	○
左足出	爪先上げ	右そろえ	
イヤ△	ハア	○	○
右足出	左足で踏みとめ		
イヤ△	ハ○	○	○
両手下げ、腰をかがめて角ノ拍子(②)			
イヤ△▲	ハア	○	○
		左	右
			左と足拍子

体起こし、両手上げネジッて左へ回る(③)  
 大小前へ行き、正面よりシカケ  
 左袖カズキ、扇を顔に当てながら左へ向く(④)  
 少し体をかめながら右へ大きく回り  
 大小前へ戻り、袖と扇おろす

① 両手広げ角へ向き  
右足出す



② 腰かがめ角ノ拍子



③ 両袖広げながら  
ネジッて左へ回ル





右より三足で正面へ出、左袖を巻く  
 扇を胸の辺りにあて、少し仰向ながら左へ回り(⑤)  
 大小前へ戻り、袖直して左右打込  
 身をかがめて足拍子五つ(⑥)

イヤ△

ハ○

ハ○

○

左

右

イヤ△

ハ○

ハ○

○

左

右

左と足拍子

拍子を踏みながら体を少しずつ起こす  
 再び両手上げ謡出  
 「ひと舞舞はう」

左より三足出

ネジッて左へ小さく廻り

大小前に戻って正面向き

屈身敬礼して体戻し、

両手広げる

地「万歳楽」

ネジッて向きを変え、扇閉じて面箱のところへ行く  
 右膝立てて面を外す

扇を取り、膝立て替えて立ち、右足より正中へ出  
 右、左、右と袖を扱いながらシサリ

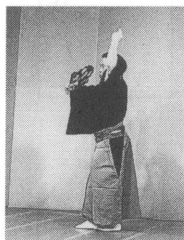
左膝立てて下居 礼

膝立て替え、袖を扱って立ち、左足より出、幕へ入る

④ 左袖カズキ扇で顔をおおいながら右へ向く



⑤ 左袖巻キ扇胸にあて左へ回ル



⑥ 身をかがめて足拍子



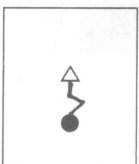
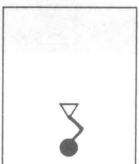
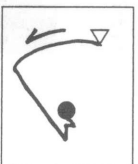
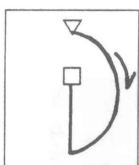
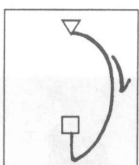
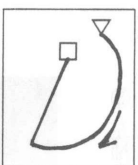
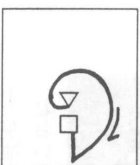
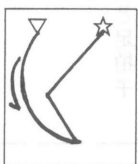
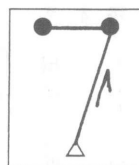
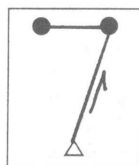
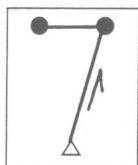
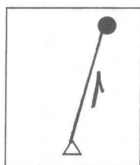
公羽ノ舞概念図

金 春

金剛・喜多

宝 生

観 世



舞始め  
袖カツグ  
☆

舞終り  
袖巻く  
□ ○

足拍子  
●

三、 笛（森田流）と謡の関係

座付 小鼓の手を見計らい歌い出す

「とうとうたりたりら  
たりあがりららりとう  
ちりやたりたりら  
たりあがりららりとう  
所千代までおはしませ  
我らも千秋さむらはう  
鶴と亀とのよはひにて  
幸ひ心に任せたり」

とうとうたりたりら  
ちりやたりたりら  
たりあがりららりとう

座付

ヒウヒューイヤー ターウターウタウタターウ  
ターウタヒューイヤー オヒヤーロールラー  
オヒヤーイヨー ヒウロヒヤーラーウヒヒヤー  
ヒヒヤーウリイヤーウロイヤー ロルラー 日ヤア日

発調ノユリ①

オヒヤーロールラーラーウラーウラウリイヤー  
オヒヤーリイヤーファー ヒヤロールリー  
ヒヒヤーウリイヤーウ  
ターウタウ ターウターウタウヒューイヤー  
オヒヤーロールラーラー ヒウリーウ  
ヒヒヤーウローイヤー ホヒヤー 丁 丁

① イ・モ：謡い出すのとほぼ同時に吹き出す

フ：小鼓が打ち出すのを聞いて二句目あたりから吹き出す  
シテ謡の終わり「ららりとう」あたりまでアシラウ

ヒシギ

千歳の舞終わり

翁の祝言

総角やとんどや」

尋ばかりやとんどや

坐してゐたれども

参らうれんげりやとんどや」

千早ぶる神のひこさの昔より

久しかれとぞ祝ひ

そよやりちや」

天下泰平国土安穩

「今日の御祈禱なり

ありはらや

なぞの翁ども

あれはなぞの翁ども

そやいづくの翁とうとう

そよや」

ノタレノ呂②

ヒヤーローイ ヒウーイヤー ロルラー

ホヒヤー 丁 丁

② 千歳に続いて吹き出し、「総角やとんどや」あたりまでアシラウ

真ノ真言ノ手③

ヒヒヤーウ ヒヒヤーウターウタウターウヒー

フルロー ロルラー ホヒヤー 丁 丁

③ 「坐してゐたれども」を聞いて吹き出す

草ノ真言ノ手④

ヒヒヤーウ ターウターウ ヒーフロー

ホヒヤー 丁 丁

④ 「久しかれとぞ祝ひ」を聞いて吹き出す

草ノ呂⑤

ヒヤーロルラーラー ヒウーイヤー フーヒヤーローイ

ヒヒヤーウ タララウー リーウヒョールラー

ホヒヤー 丁 丁

六ノ下⑥

ヒウリーウイヤー リーウヒューイ

ヒヒョーイヤーラーローイ

⑤ モ・イ：小鼓の打出と一緒に吹き始める

フ：謡を聞き、小鼓が打ち始める前に吹き出す

⑥ モ：最後の「ツロイヤ」は吹かない

千秋萬歳の 喜びの舞なれば  
ひと舞舞はう萬歳楽  
萬歳楽 萬歳楽 萬歳楽

翁ノ舞⑦

ヒウールーイ ヒヒョールリー ロルラーラー  
ヒウーヤー 日ウーヒヤー  
オヒヤーイ ヒヒヤーウ ヒヒヤーウターウターウターウターウ  
ヒヒヤーウルローイヤー ローイ  
ヒウーヒヒヤーウラーウヒョロイ ホヒヤー 丁 丁 ⑧  
ヒーウイヤー リウヒー ロルラーラー  
オヒヤーイ ヒーウイヤー リーウヒューイ  
ヒヒョーイヤー ラーローイ ツローイヤー  
ヒウリーウ ヒヒヤウルローイヤー ホヒヤー 丁 丁 ⑨

⑦ イ：「そよや」を聞いて吹き出す

フ・モ：「ニツ頭」の頭をニツ聞いて吹き出す

フ・モ：鼓のシラセを聞いて吹き止め、天・地ノ拍子では吹かない  
イ：天ノ拍子は吹かない

⑧ 地ノ拍子の前にノタレになるようアシラウ

⑨ フ：舞の途中でも唱歌を吹き終わったらその後はアシライなし

悦ノ手⑩

ヒヒョーラー

⑩ イ：最後の「万歳楽」あたりで吹く

フ：謡が終わり、面箱前に戻るまでアシラウ

モ：橋掛り一ノ松過ぎる辺りで吹く

## 四、唱歌一覽

森田流	座付
一 噌 流	<p>座付</p> <p>ヒヤア ヒューイヤ ラーウラーウラーウ          ラーウラヒューイヨ          オヒャーロルラーラー オヒャーヨ          ヒヤアロ ヒューヒュールヒヤ          ヒャーウリャーウローイヤ ロルラー          ヒーヤアヒ</p> <p>大ユリ</p> <p>オヒャーロルラー ラーウラーウラウラヤ          オヒャーリャー フー ヒヤロルリ          ヒャーウラウラーウラウ          ラーウラヒューイヨ          ヒャアーリウ ヒャウラーロイヨ          ホヒャーローウ ヒヨウ</p>
藤田流	<p>座付</p> <p>ヒウヒューイヤウ ラウラーウラウ          ラウラーウヒューイヨ          オヒャーロルラーラー オヒャーイヒャーウ          ヒウロヒューヒュール ヒヒャーウ          ヒヒャーウ ヒーヤローイヤ ロルラー          ヒーヤーヒ</p> <p>高音ノ大ユリ</p> <p>オヒャーロルラー ラララーリャー          オヒャーリャー ヒヤロルリ          ヒヒャーウラーウラーウラウ          ラウラーウヒューイヨ          ヒウリウ ヒヒャウル ローイヤ          ホヒャロー ヒヒョウウ</p>

森田流	一 噌 流	藤 田 流
ノタレノ呂	名称なし ヒヤロルフルリーウ ヒヤーウラローイヨ ホヒヤーローウ ヒヨウ	総角ノ小手（呂ノ小手トモ） ホーローイヒヨララーウ ヒヒヤウル ロイヤー ホヒヤロー ヒヒヨウ
真ノ真言ノ手	真ノユリ ヒヤーウラーウラーウリーリー ヒユー ヒューロー ロルラー ホヒヤーローウ ヒヨウ	真ノユリノ吹上 ヒヒヤーウラーウラーウヒ ヒユーヒューイヤ ロルラー ホヒヤロー ヒヒヨウ
草ノ真言ノ手	草ノユリ ヒヤーウラーウラーウリーリー ヒユーヒューロー ホヒヤーローウ ヒヨウ	草ノユリノ吹上 ヒヒヤーウラーウラーウヒ ヒユーヒューイヤ ヒヤロー ヒヒヨウ
草ノ呂	真ノ呂 ホーロルラーラー ツローイヨフーヒヤローイ ヒヤアーリーウ ヒヤウラローイヨ ホヒヤーローウ ヒヨウ	真ノ呂（本ノ呂トモ） ホー ロルラーラヒューイヤーフヒヤローイ ヒウリーウ ヒヒヤウル ローイヤ ホヒヤロー ヒヒヨウ
六ノ下	六ノ下 ヒヤー ヒウイヤーリウヒユイ ヒヒヨーイヤーラーローイ ツローイヨ	六ノ下 ヒウリーウイヤー リウヒユイ ヒヒヨーイヤーラーリウローイ ヒホーイヤ

<p>翁ノ舞</p>	<p>翁ノ舞</p> <p>ヒウローウヒヨールリー ロルラーリヤーリー ヒウヤーヒウヒヤー」</p> <p>オヒヤーリヤリ ヒヤーウ ヒヤーウ ターウターウターウタウ ヒヤウラー ローイヤー ローイ」</p> <p>ヒヤーアヒヤーウヒヤ ヒヨールルリー ヤーウヒヤー ヒウイヤリウヒロルラー オヒヤーイ ヒーウイヤリウヒューイ ヒヒヨールラーローイ ツローイヨ フ、ホ、ホヒヤロ ヒヤルリウ ヒヤウラ ロイヤ ホヒヤールウ ヒヨウ</p> <p>翁歸リ ヒヒヨールー</p>
<p>翁ノ舞</p> <p>ヒウールー ヒヨールリー ヨルリーリヤーリ オヒヤールルラー ヒーヤイヤ ヒウヒヤー」</p> <p>オヒヤーリヤーリ ヒヒヤーウ ヒヒヤーウ ターウターウタウタウターウ ヒヒヤウル ローイヤー ホヒヤロー ヒヒヨール」</p> <p>オヒヤーイ ヒーウイヤリウヒューイ ヒヒヨールヤラリウローイ ヒホーイヤ フーラー ホヒユホヒュール ヒヒヤーウ ヒヒヤウルー ロイヤー ホヒヤロー ヒヒヨウ</p> <p>翁歸リ ヒヒヨールー</p>	<p>悦ノ手</p>





千歳の舞終わりのヒシギ	打出ノ手Ⅱ	打出ノ手Ⅱ	打出ノ手Ⅱ	打出ノ手Ⅱ	二ツ頭オドリ
	打返	打返	打返	打返	③ノベオドリ
	二ツ頭オドリ	二ツ頭オドリ	二ツ頭オドリ	二ツ頭オドリ	頭長地打行
	ノベオドリ	ノベオドリ	ノベオドリ	ノベオドリ	頭長地打行
総角やとんどや	頭長地打行	頭長地打行	頭長地打行	頭長地打行	頭長地打行
坐してゐたれども	結	頭長地打行	頭長地打行	頭長地打行	頭長地打行
参らうれんげりやとんどや	④打留メノ手	打留メノ手	打留メノ手	打留メノ手	⑤打留メノ手
久しかれとぞ祝ひ	鼓肩に	翁の一調	翁の一調	翁の一調	(不打)
そよやりちやとんどや	翁の一調	翁の一調	翁の一調	翁の一調	
今日の御祈禱なり	⑥打出ノ手Ⅲ	打出ノ手Ⅲ	打出ノ手Ⅲ	打出ノ手Ⅲ	打出ノ手Ⅲ
あれはなぞの翁ども	二ツ頭	二ツ頭	二ツ頭	二ツ頭	二ツ頭
	一ツ頭打行	一ツ頭打行	一ツ頭	一ツ頭	一ツ頭打行
そやいづくの翁とうとう	打返	打返	知ラセ	打返	二ツ頭オドリ
そよや	二ツ頭オドリ	二ツ頭オドリ	二ツ頭オドリ	二ツ頭オドリ	二ツ頭オドリ
翁ノ舞	⑧ノベ	ノベ	⑦ノベ	ノベ	ノベ
	二ツ頭走リトヌク一ツ頭交互ニ打行				

翁目付柱で足を留める 翁足拍子	二ツ頭走り ⑨ 天ノ拍子	二ツ頭走り 天ノ拍子	二ツ頭走り 天ノ拍子	二ツ頭走り 天ノ拍子	二ツ頭走り
翁脇柱で足を留める 翁足拍子	二ツ頭走り ⑪ 地ノ拍子	二ツ頭走り 二ツ頭走り ⑫ 二ツ頭トヌク一ツ頭交互二打行 地ノ拍子	二ツ頭走り 二ツ頭走り 地ノ拍子	二ツ頭走り 二ツ頭走り 地ノ拍子	二ツ頭走り
袖ヲカツグ所	⑬ 一ツ頭 ⑭ 打返	一ツ頭 打返	一ツ頭 二ツ頭オドリ	一ツ頭 打返	一ツ頭 二ツ頭オドリ
袖を巻く(下掛り)	二ツ頭オドリ ノベオドリ 頭半ノ地 ヌキ打行 結	二ツ頭オドリ ノベオドリ 頭長地打行	③ オドリ返 頭長地打行	二ツ頭オドリ ノベオドリ 頭長地打行	⑮ 頭長地打行
翁大小前で留めて左右 (上掛りはここで袖を巻く)	二ツ頭打行 打返	二ツ頭打行 打返	二ツ頭打行 打返	二ツ頭打行 (打返不打)	二ツ頭打行
翁足拍子	手 手	手 手	手 人ノ拍子	手 手	⑯ 一ツ頭 一ツ頭打行
萬歳楽 萬歳楽 萬歳楽	一ツ頭 一ツ頭打行 知ラセ 翁帰リノ地	一ツ頭 一ツ頭打行 知ラセ 翁帰リノ地	一ツ頭 一ツ頭打行 知ラセ 翁帰リノ地 (カケ声ナシ)	一ツ頭 一ツ頭打行 知ラセ 翁帰リノ地	⑰ 翁帰リノ地
翁面を脱ぎ正面へ向き直る 翁正先へ出て膝まづき礼	カケ声 カケ声	⑮ カケ声 ⑮ カケ声		⑱ カケ声 カケ声	

翁礼終わり橋掛りの方へ向き直る 翁橋掛りにかかる 翁幕へはいる			
カケ声	カケ声	カケ声	カケ声
⑮カケ声	カケ声	カケ声	カケ声
知ラセ	知ラセ	知ラセ	知ラセ
トメ	トメ	トメ	トメ

① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱

頭取が打返を打つと一ツ頭に変える

他流は一ツ頭打行

オはオドリ返（トリノ間）。この部分オはトリ地十本地にとる

謡いっぱいに留め鼓膝に下ろす

カ以外は頭取と胴脇が交互に打つ カは三人で交互に打つ

オはトリの間に取る

頭取が知ラセを打つ（セは不打）

シテ方金春流相手の時、地ノ拍子まで抜ける

コは下掛り相手の時、地ノ拍子後、替ノ二ツ頭を打つ

シテが袖をカツグときハアのカケ声を伸ばして知ラセ

上掛り相手の時、ここから結までぬける

この間、コは 頭半ノ地↓ヌキ打行

頭取が打返を打つと一ツ頭に変える

ただしカは頭取の手の間は二ツ頭、頭取と一緒に一ツ頭になる

コは最初の1句不打

シラコエ

脇鼓と交代でカケ声を掛けることもあり

カ	オ	セ	コ	打返
イ -△-ヤ	イ -△-ヤ	イ -△-ヤ	イ -△-ヤ	1
—	—	—	—	2
イ -△-ヤ	イ -△-ヤ	イ -△-ヤ	イ -△-ヤ	3
—	—	—	—	4
ハ -○-	ハ -○-	ハ -○-	ハ -○-	5
—	—	—	—	6
イ -△-ヤ	イ -△-ヤ	イ -△-ヤ	イ -△-ヤ	7
—	—	—	—	8

カ	オ	セ	コ	打出ノ手
—	—	—	—	1
—	—	—	—	2
—	—	—	—	3
○- ヤ	○-	○-	○-	4
—	ハ —	—	—	5
●- ア	△ ア	△-	△-	6
○-	○-	○-	○-	7
—	—	—	—	8

六、小鼓手組一覽

カ	オ	セ	コ	一ツ頭
イ -△-ヤ	イ △-	イ △-	イ △-	1
—	—	—	—	2
ハ -○-	ハ ○-	ハ ○-	ハ ○-	3
—	—	—	—	4
ハ -○-	ハ ○-	ヤ ○-	ハ ○-	5
—	—	—	—	6
○ -○-	○ -○-	○ -○-	○ -○-	7
—	—	—	—	8

カ	オ	セ	コ	二ツ頭
イ -△-ヤ	イ -△-ヤ	イ -△-ヤ	イ -△-ヤ	1
—	—	—	—	2
イ -△-ヤ	イ -△-ヤ	イ -△-ヤ	イ -△-ヤ	3
—	—	—	—	4
ハ ○-	ハ ○-	ハ ○-	ハ ○-	5
—	—	—	—	6
○ -○-	○ -○-	○ -○-	○ -○-	7
—	—	—	—	8

手

カ	オ	セ	コ	打出ノ手II
イ ヤ	イ ヤ	イ ヤ	イ ヤ	1
-△-	-△-	-△-	-△-	2
エ	ヨ	ヨ	ヨ	3
ー	ー	ー	ー	4
イ	イ	イ	イ	5
-△-	-△-	-△-	-△-	6
ヤ	ヤ	ヤ	ヤ	7
ー	ー	ー	ー	8
ア	ア	ア	ア	
-○-	-○-	-○-	-○-	
ハ	ハ	ハ	ハ	
-○-	-○-	-○-	-○-	

手が二度続くとき、セは二度目に②を打つ

カ	オ	セ ②	セ	コ
イ ヤ	イ ヤ	イ ヤ	イ ヤ	イ ヤ
-△-	-△-	-△-	-△-	-△-
エ	ヨ	ヨ	ヨ	ヨ
ー	ー	ー	ー	ー
イ	イ	イ	イ	イ
-△-	-△-	-△-	-△-	-△-
ヤ	ヤ	ヤ	ヤ	ヤ
ー	ー	ー	ー	ー
ア	ハ	ア	ア	ア
-○-	-○-	-○-	-○-	-○-
ハ	ハ	ハ	ハ	ハ
-○-	-○-	-○-	-○-	-○-

カ	オ	セ	コ	二ツ頭オドリ
イ ヤ	イ ヤ	イ ヤ	イ ヤ	1
-△-	-△-	-△-	-△-	2
イ	イ	イ	イ	3
-△-	-△-	-△-	-△-	4
ヤ	ヤ	ヤ	ヤ	5
ー	ー	ー	ー	6
○	○	○	○	7
-○-	-○-	-○-	-○-	8
ハ	ハ	ハ	ハ	
-○-	-○-	-○-	-○-	

打トメノ時

カ	オ	セ	コ	詰メ地
ヤ	ヤ	ヤ	ヤ	1
-△-	-△-	-△-	-△-	2
ハ	ハ	ハ	ハ	3
-○-	-○-	-○-	-○-	4
ハ	ハ	ハ	ハ	5
-△-	-△-	-△-	-△-	6
ハ	ハ	ハ	ハ	7
-○-	-○-	-○-	-○-	8

オ・カは8拍目の前にハ声を重ねる

ノベオドリ

カ セ コ

イ ヤ	イ ヤ	イ ヤ	イ ヤ				
○— —	○— —	○— —	○— — —1		○—	○—	○—1
○— △—	○— △—	○— △—	○— △—2		○—	○—	○—2
ハ ○— △—	ハ ○— △—	○— △—	○— △—3		ハ ○—	○—	○—3
— △—	— △—	— △—	— △—4		—	—	—4
○	⊖	○	ハ ○— △—	ハ ○— △— —5	○	○	○
○— △—	○— △—	○— △—	○— △— —5		○—	○—	○—5
○— ○—	○— ⊖—	○— ○—	○— ○—6		○—	○—	○—6
ハ ○— ○—	○— ⊖—	○— ○—	○— ○—7		○—	○—	○—7
ハ — ○—	— ⊖—	— ○—	— ○—8		—	—	—8

頭長地打トメ

[illegible]







人ノ拍子

← 才

	イ	
—ヤ	△ヤ	1
△ハ	—	2
—ヨ	ヨ	
—	●	3
△イ	△イ	4
—ヤ	—ヤ	5
△ハ	△ハ	6
△	△	7
—	△	8

\* 才以外は手を打つ

又丰

コ

— 1  
 -○- 2  
 -○<sup>ハ</sup> 3  
 — 4  
 -○<sup>ヤ</sup> 5  
 -○- 6  
 —<sup>ハ</sup><sub>ア</sub> 7  
 -○- 8

頭半ノ地

コ

イ  
— ヤ 1  
— ア 1  
-△- 2  
-△- 3  
-△- 4  
-△ ハ 4  
-△ ア 5  
-○- 6  
-○- 7  
—— 8

地ノ拍子

セ

イ	イ
△ヤ	△ヤ-1
—	— 2
— ハ	— ハ 3
○ア	○ア 4
○—	— ヤ 5
—	○ア 6
○	○— 7
○—	— 8
—	

翁歸リノ地

カ　オ　セ　コ

●	フ	△	△	1
×				
×	×	ツ	×	2
○	○	○	○	3
×	○	○	○	4
○				
×	×	ツ	×	5
×	○	○	○	6
○	/	ツ	×	7
×				

[Summary]

Documentation  
on the Various Styles of Okina

TAKAKUWA Izumi

Okina, in which two old gods give blessing to mankind by dance and songs, is the oldest repertoire of *No*. Performed since the Kamakura Period, we can see older styles of music and dance in Okina. In addition, many of the ceremonial and ritualistic conventions still remain in the performance. But the performance has not been the subject of investigation, for it has been considered mysteries of the art of *No* and its scores have not been made public.

Today, Okina is not performed so often as it used to be. So, we have started to keep a record of its performance by tape and video. This paper shows not only the differences in performance among the five schools of actors, three schools of flutists and four schools of small hand-drummers but also the mutual intercourse among the parts.